

右足で描いた躍動感ある60点

脳性小児まひで両手が不自由ながらキーボードの演奏や講演活動を続ける「ふうちゃん」こと富永枝さん(52)=長野市三輪=が二十七日、同市内で初の絵手紙作品展を開く。約十年間にわたって友人に足で書き送った作品は三百点以上。豈二枚分の大きさの和紙いっぱいに描くこともあり、色鮮やかで躍動感ある作品を見る人を圧倒する。

▼
▲
富永さんが絵手紙に出会ったのは十年前
友人に誘われて始めたのがきっかけだ。
両手が不



足の指の間に筆をはさんで、和紙に絵や文字を描く富永さん

「ふうちゃん」念願の絵手紙展

自由なため、右足の親指と人差し指の間に絵筆を

題材は、動物や花が多い。「生き物を描くこと

ある」と記し、かぼちゃ

の絵に「どーん」という

よ」の文字を書いた。四

枚分の赤や黄色のハイビ

スカスの花には「今二

から未来への一步」と添

えており、友人や自分自

身に贈る贈り物のメッセ

ージにもなっている。は

い」と話す。

がきに描いた絵手紙を友

人と交換するうちに熱中

し、どんどん大きい作品

に挑戦するようになった

という。作品展は念願だ

った。

四年ほど前、老化が早

くなる脳性まひの二次障

害が発症したときは、「人

の尊さ」はかなを痛感

した。ニュースで若者の

自殺が報じられるたびに

隣間に感じ、「せつかく

もった命だから、私は

生きるぞ」と思う。絵手

紙には、生きるぞへの

前向きな気持ちを表す言

葉が並ぶ富永さんは「絵

とともに書いた言葉を読

んで楽しんでもらいた

い」と話す。

今回の「風子の絵足紙

(えがみ) キャラバン

『出発展』は、富永さん

の友人ら十人ほどでつく

る実行委員会が企画・運

営。県内外から作品展の

問い合わせがあり、全国

で開く予定だ。初回は、

同市のちょっと隠れおいら

館で五月八日まで約六十

点を展示する。委員会は、

運営ボランティアの参加

を呼び掛けているほか、

年間)に協力してくれる

人を募っている。問い合わせは事務局(☎090-7251-1912)

長野で「病気に負けず」言葉添え

27日 「病気に負けず」言葉添え

富永さんが絵手紙に出会ったのは十年前
友人に誘われて始めたのがきっかけだ。
両手が不自由ながらキーボードの演奏や講演活動を続ける「ふうちゃん」こと富永枝さん(52)=長野市三輪=が二十七日、同市内で初の絵手紙作品展を開く。約十年間にわたって友人に足で書き送った作品は三百点以上。豈二枚分の大きさの和紙いっぱいに描くこともあり、色鮮やかで躍動感ある作品を見る人を圧倒する。

▼
▲
富永さんが絵手紙に出会ったのは十年前
友人に誘われて始めたのがきっかけだ。
両手が不

富永さんは「絵手紙を読むことで、これまでの人生がまた新たな意味で見えてくる」と語る。絵手紙には、生きるぞへの前向きな気持ちを表す言葉が並ぶ。富永さんは「絵とともに書いた言葉を読んで楽しんでもらいたい」と話す。

今回の「風子の絵足紙(えがみ)キャラバン『出発展』は、富永さんとの友人ら十人ほどでつくる実行委員会が企画・運営。県内外から作品展の問い合わせがあり、全国で開く予定だ。初回は、同市のちょっと隠れおいら館で五月八日まで約六十点を展示する。委員会は、運営ボランティアの参加を呼び掛けているほか、年間)に協力してくれる人を募っている。問い合わせは事務局(☎090-7251-1912)